

り分がある。消化器系の副作用が少ないならありがたい。しかし、プラザキサは心房細動の血栓塞栓予防薬として先に世に出ている。その時間差をどのくらい有意義に使えるか。

- エドキサバンは整形外科領域の深部静脈血栓の予防に使えることになった。
- リバーロキサバン(イグザレルト[®])とアピキサバン(エリキュース[®])が処方できるようになり、NOAC(新規抗凝固薬)の使い分けについて、話題が広がっている。
- また、長い期間お世話になったワルファリンである。NOACが出たからといって、手のひらを返すようにワルファリンの欠点を強調するのはエレガントではない。ワルファリンの顔を立てつつ、NOACの使い勝手の良さを静かに享受するのが人の道を外さない臨床医である。最近の症例はほぼすべてNOACで治療を始めている。
- リバーロキサバン(イグザレルト)は2012年1月承認されている。「非弁膜症性心房細動患者の虚血性脳卒中および全身性塞栓症の発症抑制」という適応だが、海外では急性冠症候群の二次予防への適応も申請されている。
- アピキサバンは2013年に発売開始され、エドキサバンも2014年には心房細動に承認される見込み。